筑波大学附属病院　茨城県立中央病院

筑波大学附属病院　茨城県地域臨床教育センター［広報誌］

茨城県地域臨床教育センターだより

2015 Vol.14

〒309-1793　茨城県笠間市鯉淵6528　☎0296-77-1121　平成27年6月1日発行（第14号）

産婦人科　分娩対応再開について

副センター長
教授
沖　明典

専門領域 ■ 婦人科腫瘍疾患

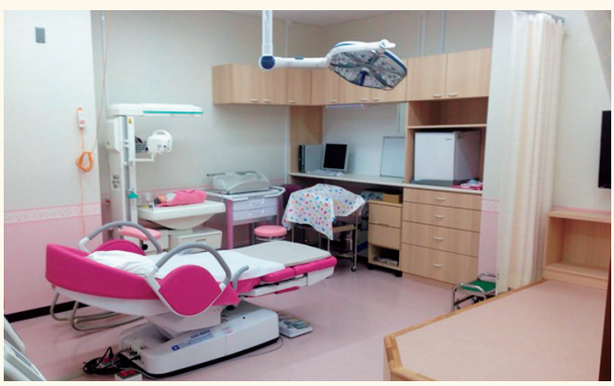
県立中央病院産婦人科は2011年に地域がんセンター婦人科部門として再スタートし、県央・県北地域の婦人科がん診療施設として診療を行ってきましたが、2015年度から産科部門を再開する運びとなりました。

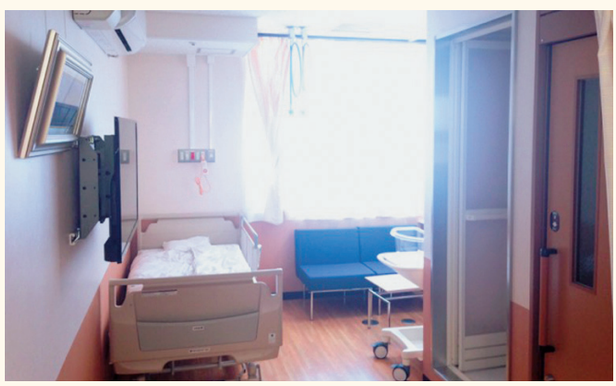
2004年に産科休止となって10年経過し、筑波大学からの医師派遣も徐々に増加して、本年度は８名体制となります。もとより笠間市内には分娩対応医療機関が一つしかないことから産科再開が望まれており、病院の都合とはなりますが、当院に隣接する県立看護専門学校助産科の実地研修や当院での研修医の周産期部門を主とした産婦人科研修など現在県内他医療機関にお願いしている状況を解消することも目的の一つでもあります。

産科休止当時、当院に在籍していた助産師は院内で他科診療に携わる看護師として、あるいは県内医療機関に助産師として出向して研鑽を重ねたり、看護学校の教員として指導したりしながら、再開を心待ちにしていたと言います。今回分娩再開にあたり当院に再結集し、産科外来部門は既に診療を再開し、９月以降に分娩再開できるように準備を整えている状態です。

産婦人科医が増員となっているとは言え、県北・県央地区で婦人科腫瘍の診療を行っている婦人科部門を縮小するわけにはいきません。そこで、再集結した助産師の高い臨床経験を最大限に発揮できる場をつくり、限られた人的医療資源を最大限活用する方策として、院内助産システムを導入することといたしました。これは、従来型の妊娠女性を産科医師が中心となって妊娠・分娩管理する産科として再開するのではなく、助産師が中心となって分娩のみならず、妊娠中から妊娠女性に積極的に関わるということを目指すシステムです。我々産婦人科医は妊娠初診から妊娠前期に妊娠・分娩リスクの評価を行い、妊娠・分娩リスクの少ない場合は妊娠中から助産師が、院内助産師システムの中で自然分娩を目指すというものです。医師にとっては比較的リスクの低い妊娠女性の管理を助産師中心にケアを行うことで、リスクのある方々や医学的介入（帝王切開分娩など）に注力することができるため、人的資源を有効活用できる利点があります。また、助産師は産院の中で分娩対応だけでなく、妊娠中から産後までを経時的な関わり合いを持つことでより専門性を発揮してやりがいのある仕事が可能になること、そして何より、分娩される産婦さんにとってもきめ細かい助産師の対応が持続的に受けられるという、互いにwin-winなメリットが享受できることを目的としています。また、産婦人科医師、助産師の綿密な連携のもと、妊娠・分娩時に問題点が発生した場合には、適切な医学的な介入がいつでも行える体制をとっておりますので、安心して分娩していただけるものと自負しています。

内覧会を予定しております。機会がありましたら、是非お越し下さい。当院での院内助産システムを体験されてみてはいかがでしょうか。





産婦人科病棟

循環器センター5年目へ

准教授
武安　法之

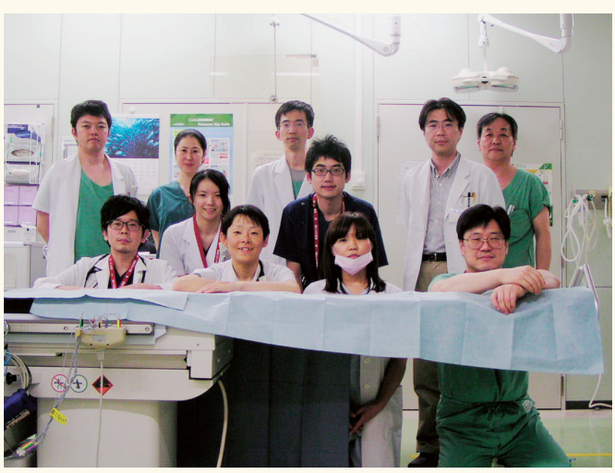
専門領域
- 循環器内科
- 虚血性心疾患
- 心血管カテーテル
- 治療

茨城県立中央病院循環器センターが開設して４年が経過し、この2015年４月から５年目を迎えております。あらゆる循環器疾患症例を24時間受け入れ可能な体制を整えて、この４年間のセンター病床稼働率は85％以上を維持し、当院の循環器診療の進展に大きく貢献してまいりました。茨城県立中央病院のあらゆる部署のスタッフから多大なご協力をいただきましたおかげで、ここまで運営してこられたものと感謝しております。この場をおかりしまして、心から御礼申し上げます。

CCU病棟は、様々な面でたいへん恵まれた環境で運営させていただいておりますが、不備がないわけではありません。患者さんご本人のcure、careに重きを置かせていただくがために、患者さんご家族に対しての設備は十分とはいえない状況です。ご家族との面談室や控え室などはとても充足しているとは申し上げられない現状でありますが、それら欠点を補完すべく病棟の拡充を模索しているところでございます。現時点ではまだなにも申し上げられる段階にはありませんが、決して不備に目を伏せているわけではなく、日々改善点を探索しながら運営する気持ちを忘れないようにしておるつもりです。

この４年間でいくつかの新しいアプローチに取り組んでまいりましたが、なかでも最も新しい診療アプローチとして心大血管リハビリテーションがございます。手術治療やカテーテル治療、不整脈アブレーション治療といった、一見派手で劇的な変化を生み出す治療法ではありませんが、明確な予後改善効果のエビデンスが豊富に存在し、週単位でめざましく患者さんを回復させる魔法のようなアプローチだと思っています。術後患者さんに対しても、手術直後から、時には厳しく、時には和やかに患者さんにアプローチするこの治療手法は、年齢や疾患を問わず目覚ましい変化を患者さんにもたらします。しかもそれは身体的のみならず精神的な効果まで含まれているように思われます。当循環器センターでは、介入可能と判断される患者さんに対して、時期を問わず積極的にこの治療アプローチを開始し、より生活の質が高い予後改善に取り組んできました。さらには退院された後も継続いただけるように外来リハビリテーションにも取り組みはじめています。このような新たな治療アプローチにも、リハビリテーション医師・リハビリテーション室スタッフをはじめ、多くの理学療法士、看護師さんたちの協力は欠かせません。まさしく他の治療法と同じく、チームでのアプローチ、チーム医療そのものであると実感しております。

最後に、この茨城県立中央病院循環器センターの父ともいえる筑波大学心臓血管外科　榊原　謙　前教授が、2014年６月ご逝去されました。ここに、今後のさらなる循環器センター発展をお誓い申し上げ、あらためて哀悼の意を表します。



循環器センター　医師スタッフ

CCU専従看護チーム

筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学附属病院　茨城県地域臨床教育センター

〒309-1793　茨城県笠間市鯉淵6528　☎0296-77-1121
ホームページ　http://www.hosp.tsukuba.ac.jp/chiiki/cyubyo/

茨城県